

# 「目からうろこ」の学習システム—探究指導力育成方法の研究

前号でご報告した、学習指導映像分析による探究指導力育成方法の研究<sup>2</sup>結果を、報告書にまとめました。開発した学習システムの効果測定における被験者の活動の経過観察やアンケートの結果を整理したものです。近々、研究紀要 77 号として発行の予定です。(注：(財)新技術振興渡辺記念会より助成を受けての研究)

表題は、被験者の1人がこの学習システムを体験しての感想です。「それまでの自分の視点で観察したときには、一見良い活動が展開しているように思えた(子どもたちの)学習活動も、この方式で、視点をもって分析してみると、自分で考えていないとか、先生が説明しすぎだとか、見えなかったことがいろいろ見えるようになった。目からうろこが落ちたという感じだ」というのです。

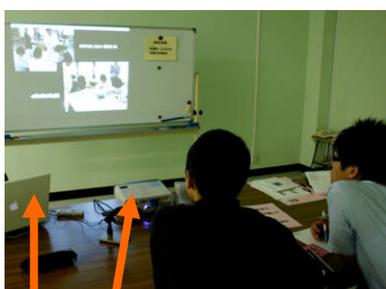
分析対象の学習指導映像



教師が誰に何を指導しているか観察する

学習者一人ひとりの活動を観察する

学習指導映像の分析活動の様子



パソコン  
プロジェクタ

マウスで画面上のコントローラを操作し、自由に止めたり巻き戻したりして観察



コントロール

パソコン画面  
この映像をスクリーンに映写

その他、被験者 6 人全員から「学習指導の力をつけるのに大変効果がある」と高い評価、「自分の学習指導の様子も撮って、ぜひ自分自身で分析してみたい」「教師になる人全員がやるとよい」「教員になってからでもやるとよい」という感想や意見をもらいました。

6 年理科「電磁石の働き」の探究学習の学習指導映像 4 種(各約 1 時間)を 4 段階で分析。事前の探究学習の体験を含めると約 13 時間。この方式での観察分析は、学習者が自分で考えて探究しているか、という視点で行います。学習者、教師を一人ずつ観察し、何を見て(聞いて、読んで)どのように行動したか。どのような発言質問をしたか。そこから何が読み取れるかを考える。映像は短く区切って観察し、インストラクターのアドバイスを手がかりに、読み取れるようになるまで繰り返し観察します。

学習者の状態、状況が読み取れるようになったら、そうした状況状態に対して教師の指導は適切であったか、学習者が自分で探究を進めていくための支援になっているかを分析し、適切でない場合は、どう指導すれば良いかを考えます。今回の効果測定では写真のように 2 人 1 組で行いましたが、これがまた、他の人に話すことで自分がとらえたことがはっきり認識できる、他人の視点が取り込めると好評でした。被験者の学習者の理解の状態や教師の指導の問題点を読み取る力、探究の支援のしかたを考える力は期待以上に成長。読み取りの速度や、引き出し方・支援のしかたを考える速度もかなり速くなり、場面によっては即実践力になると感じました。今後、この成果を基にして、教員養成の現場への適用について研究を進めていきたいと考えています。

(研究開発部)

JADEC ニュース 77 号 (2009.3) より

分析の積み上げ方	
第 1 段階	自分流と本方式での分析の比較
第 2 段階	分析の視点の定着
第 3 段階	分析視点の活用 1 同一内容で異なるグループ
第 4 段階	分析視点の活用 2 異なる内容、異なるグループ 2 人の教師の比較